



# 国際交流ひろば

11

月号

## KAGOSHIMA INTERNATIONAL ASSOCIATION NEWS

VOL. 250/ November 2021

鹿児島で世界を語ろう! 外国人による

### 第27回 日本語スピーチコンテスト 出場者募集

The 27<sup>th</sup> Japanese Speech Contest for Foreign Nationals Now Accepting Applications for New Presentations

予選 2022年1月15日(土) 10:00~

本選 2022年1月29日(土) 13:30~

会場: かがしま県民交流センター1階 県民ホール

- 応募資格:
- ① 鹿児島県内に住んでいる
  - ② 外国籍
  - ③ このコンテストで「最優秀賞」を受賞していない

応募締切

2021年11月23日(火)

必着

※詳しい内容や申込方法は、  
 かがしまけんこくさいこうりゅうきょうかい  
 鹿児島県国際交流協会(KIA)  
 HPを見てください。



【問合せ先】 TEL:099-221-6620 Email: kia5@kiaweb.or.jp (担当 海江田)

## ベトナム理解講座 in 指宿市

この講座では、ベトナムの基本情報の紹介や県内在住ベトナム人の方との交流・意見交換を予定しています

11/27(土) 14:00~16:00

※生涯学習フェスティバルと同時開催

会場: ふれあいプラザなのはな館 中央ホール (所在地: 指宿市東方 9300-1)

定員: 30名程度 参加費無料《要申込》  
※ベトナムに興味のある方でしたら、どなたでもご参加いただけます

【お申込・お問合せ先】  
指宿市 市長公室 政策推進係  
TEL: 0993-22-2111  
Mail: koshitsu@city.ibusuki.jp

台湾出身の講師が、台湾原住民や伝統工芸「琉璃玉(トンボ玉)」に触れ、台湾の多民族社会についてご紹介します

## 台湾

琉璃玉を使ったキーホルダーづくりも楽しめます!



12/5(日) 14:00~16:00

会場: かがしま県民交流センター 東棟3階 大研修室第2

定員: 30名 参加費無料!  
(先着順・要予約・小学生以上)

【お申込・お問合せ先】  
(公財) 鹿児島県国際交流協会  
TEL: 099-221-6620 (担当 谷口)  
Email: kia6@kiaweb.or.jp

台湾原住民からみえる台湾の多民族社会

## 文化紹介講座

# 「Kagoshima で暮らして」

鹿児島県の在住外国人の数は、年々増加傾向にあります。国際交流ひろばでは、鹿児島で頑張る在住外国人の鹿児島での暮らし等についてご紹介します。

今回は、ドイツのミュンヘン出身で、鹿児島市在住7年目のミハエル シレニさんにお話をうかがいました。



鹿児島大学非常勤講師  
ミハエル シレニ さん(南州公園にて)

## 出身地について教えてください。

ドイツのバイエルン州にあるミュンヘン市です。ミュンヘンは、ドイツの中でも3番目に大きい都市で、昔から芸術やキリスト教が盛んな街です。世界文化遺産になっているオペラハウスやバロック様式の教会といった歴史的な建築物も数多く残っていて、観光客に人気のある都市です。

## 日本や日本語に興味を持ったきっかけは何ですか？

一もともと日本映画に興味があり、中でも、1950年代の溝口健二監督や黒沢明監督の作品が大好きです。「山椒大夫」や「卯月物語」、「生きる」といった映画は今見ても感動します。それがきっかけで、ミュンヘン大学に入学してから、日本語や日本文化について学びました。卒業する時には、全ての常用漢字を覚えなさいといけないうです。漢字を初めて見る外国人は、難しく感じるかもしれませんが、僕は、面白かったですね。そして、在学中に、鹿児島大学へ1年間留学もしたんです。

## 留学先に鹿児島を選んだのは、なぜですか？

一僕が通っていた大学は、日本の色々な大学と協定を結んでいましたが、僕にとって、桜島のある鹿児島が魅力的だったんです。活火山のそばに住むなんて想像できなかったので、「絶対に行ってみよう！」と思ったんです。初めて、桜島の噴火を体験した時には、「こんな自然現象を間近で見ることができると、すごい！」と感動して、嬉しさのあまり、灰をたくさん浴びました。今では、もう慣れたので、風向きが鹿児島市内の時には、「いやだー」と思います(笑)。

## 留学を終えて帰国してから、再度鹿児島にいらしたのは、なぜですか？

一実は、留学中に、鹿児島のお「ごじよ」と出会ったからなんです。彼女は、鹿児島大学の学生でしたが、僕が帰国してから1年後、彼女がミュンヘン大学に留学してきて、付き合い始めました。

来鹿にあたっては、仕事のことやビザのことなど、不安はたくさんありましたが、彼女との将来のこともあり、「行くなら今しかない！」と思って、来ました。でも、すぐに結婚したわけではないですよ。「日本で一人前にならなければ結婚はしない」と決めていて、当初は、パートタイムやフルタイムの仕事をいくつかしていましたね。2年位して、鹿児島での生活が安定してきたので、結婚しました。

## 現在の仕事について教えてください。

一今は、鹿児島大学やその他の県内の大学でドイツ語や英語の講師をしています。

学生の中には、僕と同じ大学へ留学する人もいて、熱心にドイツ語を学んでくれるのは嬉しいですね。また、ボランティアとして、小学校や中学校でドイツの文化紹介講座もします。仕事を通して、ドイツと日本の懸け橋になったり、国際交流に貢献できるのもとても嬉しいです。

## 鹿児島のお気に入りがありますか？

一自然が好きで、妻と県内のキャンプ場を回ったりしています。霧島とかも良いですよ。

それから、鳥刺しが大好きです。初めて見た時は、生の鶏肉を食べることにびっくりしましたね。東京にいる友達には、「食中毒になるかもし

れないから、絶対食べちゃダメ」なんて言われました。それでも、「食中毒になっても良いから、味わってみたい!」と思い、ついに食べてみました。食べてみたら…はまっちゃいましたね(笑)

ところで、生肉や生魚は、日本以外の国では食べないと思っている日本人も多いみたいですが、そんなことないですよ。実は、ドイツでは生の豚肉を食べる文化があるんです。メットといって、新鮮な生の豚ひき肉に塩コショウやみじん切りにした玉ねぎなどを混ぜて、パンなどにつけて食べます。それに、カルパッチョも、ドイツでは生の牛肉で作るんですよ。

## 鹿児島で困ったことや戸惑ったことはありますか？

一う〜ん…生活面で困ったことはそれほどないですね。方言も、イントネーションの違いくらいで、全然気になりません。

困っていることではないですが、1つ感じることは、ドイツという国への偏ったイメージを持っている人が多いかもしれません。先ほどの「外国では生肉や生魚を食べない」というような、海外の国への固定概念を持って話をされることが多いんです。

例えば、ドイツは、ビールが有名ですよ。だから「ドイツ人は、朝からビールを飲んでるよね」と何回も言われたことがあります。そんなことはないですよ。日本のメディアで放映されるドイツのイメージは少し偏り過ぎているように感じます。

それから、「外国人だから英語ができるでしょ」というのもよく聞きます。それを聞くとちょっと残念だなと思います。当然ですが、それぞれの国には、それぞれの言葉があります。英語ができる人もいれば、そうじゃない人もいます。英語ができる外国人は多いかもしれませんが、それは第2言語として、勉強してきたからなんです。

## 外国人が暮らしやすい地域になるために、県内の人にはできることは？

一学生にも伝えていることですが、異文化に触れる機会をたくさん持ってほしいと思います。留学するのも良いかもしれません。色々な国の人や文化と出会うことで、その国の本当の姿が見えてくるので、今まで持っていた固定観念を崩すことが出来ると思います。また、海外から日本がどのように見られているのかということも実体験できるので、考え方も変わると思いますよ。

## 最近では、帰国するのも難しい状況だと思われていますが、帰国した時の楽しさを教えてください。

一新型コロナウイルスの影響でもう2年以上帰国できていないですね。帰国したら、そうですね…シュバイネブラーテンという料理が食べたいですね。バイエルン州の代表的な豚肉料理です。焼いた豚肉に、団子状にしたマッシュポテトを添えて、デミグラスソースみたいなソースをかけて食べます。日本と違うのは、豚肉を焼くときには、皮付きのまま焼くんですよ。カリカリになった豚肉の皮の部分が一番おいしいですね。

そして、もう一つは、パンですね。ドイツパンは、世界文化遺産にも登録され、ドイツ人が一番誇りに思っている食べ物だと思います。3000種類以上もあるのですが、一番代表的なのはミッシュブロートというパンですね。小麦やライ麦など色々な麦が混ざっていて、もちもちしていて、歯ごたえのあるパンです。鹿児島では、なかなかドイツパンは買えないので、最近では自分で作ったりもします。ドイツに行ったら、是非食べてもらいたいです。



ミハエルさんの好きな  
鹿児島の自然(蘭牟田池)

# 「かごしまから見える世界」 vol.4

かつてから外国との交流が盛んだった鹿児島。鹿児島に居ながらにして世界を感じられる場所をご紹介します。  
今回は、日置市東市来町美山地域をご紹介します。

鹿児島市から西へ約30km。「薩摩焼の里」日置市美山は韓国との深い縁を持つ。ここは16世紀の終わり、豊臣秀吉の命により朝鮮半島に出陣した島津が現地南原(ナモン)から連れ帰った陶工達が薩摩半島への上陸ののち最終的に落ち着いた地で、以来、薩摩藩の庇護を受けるなどしつつ、今日まで423年の歳月を過ごしてきた。太平洋戦争当時、外務大臣を務めた東郷茂徳もそのうちのひとり朴氏の末裔であり、同地区にある東郷茂徳記念館ではその生い立ちや功績、さらに美山における薩摩焼の歴史なども丁寧に展示・解説されている。館内は静かな落ち着いた雰囲気、実際に美山で出土した初期の頃の薩摩焼作品などが並べられている。取材のためじっくりと鑑賞した後、外へ出ると見事な秋空。その足で、司馬遼太郎「故郷忘じがたく候」(1968年初出)の主人公である14代沈壽官氏の窯元を訪ねた。現在は、ご子息が15代沈壽官として薩摩焼宗家・沈壽官窯を率領されている。

「16世紀の頃、日本に茶道が浸透し、また武家社会の侘び寂びの文化が朝鮮半島の器と合って珍重された。名のある茶道具ひとつが一城と同等の価値があるとされる時代。島津としても戦国の世の外交・戦略として陶工達を保護し、薩摩焼の希少性や朝鮮語の通詞確保のために朝鮮様式の生活を強いたのだと思う。」連れ帰った陶工達に対して薩摩藩が名字帯刀を許し士分(サムライ)として遇したことを問われて沈壽官氏が語る。「彼らは朝鮮から焼き物の技を持ってきた。そして渡来から17年をかけて採り当てた薩摩の土に息を吹き込み、見事に薩摩焼という宝を作りあげた。やがて島津の庇護が失われると、この日本で生きていくためには「日本人」になりきることが必要だということを感じようになり、出自故の差別に苦しみながらも、歯を食いしばり、美山の里で薩摩焼の伝統を守り、世界的に極めて高い評価

を得るまでになった。」

陶工達の故郷の地、韓国南原市は、全羅北道の南部に位置し、市内に沈壽官陶芸展示館も建っている。1998年の薩摩焼400年祭の折り、15代沈壽官氏は遠く南原の地から自らの足で地を踏みしめ、船を乗り継ぐなどして祖先の辿った道を辿り、窯で焚く「火」を美山まで運んできた。以来、炎は消えることなく、美山陶遊館の奥で「日韓友好の炎」として燃え続けている。



日韓友好の炎  
(美山陶遊館)

日韓両政府から認証を受けた駐日韓国名誉総領事でもある沈壽官氏に、昨今の日韓の交流の進め方を聞くと、「最も大切なことは『相互許容』。違いを認め合い許し合うことが必要。」「日韓の間で常に不変のものがある。それは両国が『永遠の隣人』であること。最悪の隣人となるか、最良の隣人となるか。そのためには「人対人」の相互交流が大事で、その入り口は、K-POPでも日本アニメでも何でもよい。それが国同士の目詰まりを解消してくれると信じている。」

423年の永く深い由緒を辿る沈壽官氏のお話を聞き終えて辞すると、ご自宅の前の沈家伝世品収蔵庫の白い壁が西日を受けて目を射り、たわわに実った庭柿の朱赤が見事に輝いていた。

日置市は南原市と文化交流に関する友好協約を締結し、これまで両市民によるスポーツや文化の相互交流を続けている。コロナ禍により昨年より少し滞っているが、とりあえずリモートによる交流を模索したいと同市企画課の国際交流担当者は言う。

## 日置市からのお知らせ

### 「第2回 美山 CRAFT WEEK」のご案内



美山を見て、歩いて、味わって。「薩摩焼の里」美山で、芸術の秋を楽しむ1週間として「第2回美山 CRAFT WEEK」を開催します。イベント等は実施せず、工芸品等を特別価格で販売するほか、400年窯での窯焚きや、昨年好評を博した「美山のいっぴん」企画、各窯元での陶芸体験を実施します。窯元や店舗を巡り、日常の美山をお楽しみください。詳細につきましては、日置市ホームページや美山笑点のSNSをご覧ください。

日時：10月30日(土)～11月7日(日) (9日間)

場所：日置市東市来町美山地域

問合せ先：美山窯元祭り実行委員会 (日置市総務企画部商工観光課内)

TEL: 099-248-9409

詳細は、日置市ホームページ (美山 CRAFT WEEK について)





# JICA デスク鹿児島からのお知らせ!

帰ってきた! かごんま出身隊員!

鹿児島県から出発したJICA海外協力隊員は現在累計でおよそ900名。今回は、2018年度2次隊として、スーダンに派遣されていた五反田えりなさんの活動をご紹介します!【職種:看護師】



## 【スーダン】

赤は犠牲になった人々を、白は平和と希望を、緑はイスラム教、黒は愛国心を表している。

人口: 4,281万人 面積: 188万km<sup>2</sup> 首都: ハルツーム  
宗教: イスラム教、キリスト教 言語: アラビア語、英語、部族語



スーダンは、南部が南スーダン共和国として独立するまで、アフリカ最大の面積を誇る大国で、現在アフリカでは3番目の大きさです(日本の約5倍)。200を超える部族が混在し、多くはイスラム教徒ですが、キリスト教徒も多く、争うことなく、共存しています。国土の大半はサハラ砂漠から続く砂漠地域で、気温は40度を超すことも。私は首都ハルツームのマイセトーマ研究センターに派遣されていました。マイセトーマとは、土壌から特殊な菌が傷口を経由して体内に入り、筋肉や骨を侵していく感染症で、治療や研究があまり進んでいない疾患です。スーダンには疾患を知らない国民も多く、診断される頃には、足の切断や手術を要する状況でした。私は現地スタッフと共に、主に外科処置や薬の配布・業務改善などを行いました。国の情勢悪化により食料が手に入りづらい等、逼迫した中でも、いつも穏やかで、困っている人には声をかけ、喫茶店の横を通り過ぎれば「コーヒーを飲んで行け」と誘ってくれます。ホスピタリティ溢れる人々で大好きな国です。スーダンでもらった優しさを、今度は私が他の誰かに繋げる事が出来るように日々過ごして行きたいと思っています。

JICA デスク鹿児島 担当: 仮屋

TEL: 099-221-6624 (公財)鹿児島県国際交流協会内



県内各市町村および国際交流協会主催・共催の国際交流に関する

## イベント情報等がございましたらお寄せください。

※ただし、掲載条件等がございますので、詳細についてはお問合せください。

がいこくじんそうごうそうだんまどぐち

## 外国人総合相談窓口

かごしま す がいこくじん かた そうだん  
鹿児島にお住まいの外国人の方のための相談  
まどぐち せいかつ ざいりゅうしかく ろうどう いりょう ふくし  
窓口です。生活、在留資格、労働、医療、福祉など  
で困ったことがありましたら、お気軽にご相談  
ください。

たいおうげんご : にほんご えいご ちゅうごくご かんこくご  
対応言語 : 日本語/英語/中国語/韓国語/ベトナム  
ご/タガログ語/インドネシア語/ネパール語/クメール  
語/タイ語/ミャンマー語/ポルトガル語/スペイン  
語/マレー語/フランス語/ロシア語/ドイツ語/イタ  
リア語/モンゴル語/シンハラ語/ヒンディー語

かごしまけんこくさいこうりゅうきょうかい  
鹿児島県国際交流協会内

TEL: 070-7662-4541

E-mail: kiasoudan@gmail.com



Facebook



## 本誌・掲載内容に関する問合せ・申込み先

公益財団法人鹿児島県国際交流協会  
(火曜~日曜 9:00~17:00)

〒892-0816 鹿児島市山下町14-50

かごしま県民交流センター1階

Tel: 099-221-6620 Fax: 099-221-6643

URL: <https://www.kiaweb.or.jp/>

Email: [kia@kiaweb.or.jp](mailto:kia@kiaweb.or.jp)

Facebook: <https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc>

「国際交流ひろば」は、ホームページにも毎月掲載しています。ご自由にダウンロードしてください。